

古楽盤を聴く(8)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(8)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディ、ハイドン、古典派のアナログ盤を聴き直してきました。今回も、時代をさかのぼって古楽盤を聴いてみることにしました。

2. 古典派のアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、古楽のアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次の古楽盤を聴いていきます

ドイツグラモフォン MG2392

ヨハン・パッヘルベル カノンとジーク

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

EMI AA-8860

ヨハン・パッヘルベル カノン

ルイ・オーリアンコンプ指揮トゥルーズ室内管弦楽団

ERATO FRL1-5468

ヨハン・パッヘルベル カノン

組曲 B-Frat

組曲 G

ジャン・フランソワ・ピヤール指揮ピヤール室内管弦楽団

3. 古楽のアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤は、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきます。前報(7)と同じ盤のアダージョの編成の大きいオーケストラの演奏で、耽美的な解釈

で、弦が滑らかです。

EMI 盤は、EMI、R、第 4 時定数 Low で聴いていきます。前報(7)の同じ盤のオーディオと同様、ふくよかで厚みのある音でゆったりと聴かせてくれます。

RCA 盤は、ERATO のライセンスの下に米国でプリントされたとの記載があります。そこで、RCA Victor オリジナル盤の RIAA、R、第 4 時定数 Low と ERATO の RIAA、R、第 4 時定数 Mid で聴き比べましたが、前者の方が良さそうです。

カノンは、終始、弦のピチカートがアクセントになっています。カノンも、組曲 B-Frat も組曲 G も爽やかなアンサンブルの演奏です。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベル違いのカノンの演奏の特徴がよくわかり、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上